



四日市市立大矢知興譲小学校
校長だより 10号 R8.8.18

子どもたちがつくる学級

前号では、先生たちが一人ひとりの子どもの姿をどのように見つめているのかについて紹介しました。

今回は、そこから生まれた学級づくりの取組について紹介します。

1 学期、各学級では実にさまざまな取組が行われていました。

例えば、クラスで起きた出来事や困っていることについて、子どもたち自身が話し合う時間を継続して設けている学級がありました。

「誰が悪かったのか」を決めるのではなく、「なぜ、こんなことが起きたのだろう」「みんなが楽しく過ごすためにはどうしたらよいだろう」と話し合います。教師が答えを示すのではなく、自分たちの学級のことを自分たちで考えていく取組です。

自分の気持ちや日々の出来事をノートに書き、教師とやり取りしている学級もありました。そこには、普段の会話だけでは気づくことのできない子どもの思いが表れます。その思いを教師が受け止めることから、新しい関わりが始まっていました。

また、自分の得意なことだけでなく、苦手なことや知っておいてほしいことなどを伝え合う活動に取り組んだ学級もありました。

活動を通して、「わざとしていると思っていたけれど、そうではなかった」「そんな気持ちだったとは知らなかった」と、友だちへの見方が変わっていく子どもたちの姿が共有されました。

ほかにも、友だちのよさを見つけて伝え合う、今の気持ちを表す、学級通信を通して子どもの姿をみんなで共有するなど、それぞれの先生が目前の子どもたちに合わせて工夫を重ねていました。

方法は違っても、そこには共通する願いがあります。

「もっと友だちのことを知ってほしい」

「安心して自分の思いを出せる学級にしたい」

という願いです。

私がこれらの実践で心を動かされたのは、先生たちの工夫そのもの以上に、そこで見る子どもたちの姿でした。

「わからない」と言えるようになる。

今まであまり関わらなかった友だちに声をかける。

友だちの知らなかった一面を知って、見方を変える。

困っている友だちを見て、「自分たちにできることはないかな」と考える。

こうした成長は、テストの点数のように数字では表すことができません。しかし、学校で学ぶ、とても大切なことだと思います。

学級は、先生だけがつくるものではありません。

子どもたちが友だちを知り、自分を語り、ときにはぶつかり合いながら、「自分たちはどんな学級にしたいのか」を考えていく。

その積み重ねによって、子どもたち自身が学級をつくっていくのだと思います。

学校ホームページ「学校の様子」をよろしくお願いします！

学校ホームページ「学校の様子」から、いろいろな情報を発信しています。AI を使い、やさしい日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語版も添えています。「学校の様子」または「新着情報」からお入りください。



https://www.yokkaichi.ed.jp/~ohyachi/cms2/htdocs/?page_id=250

「興譲」は保護者のみなさまに Home & School で配信するとともに、地域のみなさまに向けて学校ホームページ「学校の様子」（上のリンク）でも発信しています。